

高等学校事情

第2回

関西エリア

連載第2回は、関西エリアの京都府と大阪府の動きをレポートする。大学等進学率が全国1位の京都府は、特色ある専門学科の新設で公立高校の進学実績を徐々に伸ばしている。一方、大阪府は、2011年度に導入された私立高校授業料無償化が大きく影響し、公立高校の普通科で定員割れが起こるなど、今後の対策が課題となっている。

京都府

にある大学・短大が45校と比較的多く、そのうち約7割が京都市内にある。交通の便が良い市内や宇治市などの府南部では、特に地元への進学志向が強い。一方、日本海側の北部地域では、近隣府県をはじめ、他エリアの大学も視野に入れた大学選びがされている。

市立堀川高校の人間探究科・自然探究科(1999年設置)である。これらに続き、京都市立西京高校エンタープライジング科(2003年)、南陽高校サイエンスリサーチ科(2006年)、福知山高校文理科学科(2007年)など、大学進学を重視した特色ある専門学科の設置を推進してきた(図表2)。

府内には、東京大学、京都大学、大阪大学など、多くの国公立大学に毎年合格者を出す洛南、洛星といった私立中高一貫校や、進学実績の高い私立大学附属高校が多く、大学進学は私立高校が優位と言われてきた。しかし、高校改革と専門学科設置が本格的に推進された2003年以降は、公立高校も進学実績を上げている。

府教委によると、2010年度の府立高校(全日制)卒業生1万1116人の大学現役進学率は53.0%(国公立10.2%、私立42.8%)で、国公立大学への現役進学率は2年連続で10%を突破した。国立大学には、京都大学に前年より6人多い46人が合格、大阪大学、神戸大学の合格者を合わせると127人となる。

府教委は「大学進学に重点を置いた専門学科を設置したことにより、学校が活性化して生徒や教員の意識が高まり、各校の進学実績も上向いた」としている。

もう一つ、公立高校の進学実績を

京都府のアウトライン

大学等への進学率
67.0%で全国1位

文部科学省『2010年度学校基本調査』によると、京都府の18歳人口は2万3356人。高校数は国立1校、公立63校、私立41校の計105校(特別支援学校を除く)で、生徒数は国立約600人、公立約4万3000人、私立約2万8000人(定時制を除く)である。

大学等進学率は67.0%で、11年連続で全国1位をキープしている。府内

高校の現状① 改革の取り組み

専門学科の設置で
躍進する公立高校

京都府教育委員会は2001年度から2010年度まで、教育改革施策『『京の子ども、夢・未来』プラン21』に基づき、“多様な個性や能力の伸長”を高校改革の柱に、特色ある高校づくりを進めてきた。このプランに先駆けるかたちで設置され、国公立大学への進学実績を伸ばしてきたのが、嵯峨野高校の京都こすもす科(1996年設置)や京都

図表1 18歳人口と進学率の推移

年度	2006	2007	2008	2009	2010
18歳人口(人)	25,259	25,238	23,839	23,682	23,356
大学等進学率(%)	61.3	63.0	64.5	65.8	67.0
地元大学進学率(%)	47.5	47.9	48.9	48.7	50.1
地元短大進学率(%)	58.7	63.3	64.5	65.8	67.3

※学校基本調査報告書を基に進研アドが算出。
 ※大学等進学率には、大学・短大の通信教育部への進学者を含む。過年度卒業者を含まない。
 ※地元大学進学率、地元短大進学率には過年度卒業者を含む。

図表 2 公立高校の専門学科(設置例)

高校名	学科名	特徴的な取り組み
福知山	文理科学科	大学進学をめざす専門学科。オリジナル科目「みらい学」では大学での学習・研究につながる学力と、多様化する入試に対応できる力を育成。
亀岡	数理科学科	数学の論理とサイエンスを融合し、高度な学習を進める自然科学系学科。自ら学び、考える力を育成するゼミ形式の演習や研究課題に取り組む。
嵯峨野	京都こすもす科	普通科目を基礎とした人文社会・国際文化・自然科学の3系統を設置。1年次の「アカデミック・ラボ」では、生徒の興味・関心に応じたフィールドワークやワークショップを実施。
桃山	自然科学科	大学受験だけに特化せず、幅広い理数系教育に取り組む。「サイエンス・キャンプ」等の創造性・独創性を高める特別講座の設定や、年間を通じた土曜セミナーなどを実施。
南陽	サイエンスリサーチ科	大学進学をめざす生徒に対応した教育課程を編成。大学や関西文化学術研究都市の研究機関等との連携による多彩なサイエンスプログラムがある。
市立西京	エンタープライジング科	「豊かな経済センスの育成」を目標とし、世界最大の経済教育団体「ジュニア・アチーブメント」のプログラムを採用、企業家視点での経営・意思決定シミュレーション等を行う。
市立堀川	人間探究科 自然探究科	人間探究科(人文系)と自然探究科(理数系)を設置。文献調査や実験・観察を実施、探究基礎研究発表会で評価を行い、研究成果をまとめた「学びの作法」を習得する。

支える要因として挙げられるのが、府内に3校ある併設型中高一貫校(洛北、園部、市立西京)だ。

洛北高校では、普通科に加え、2004年度に中高一貫コースを開設。自然科学領域の教育に力を入れ、学校独自教科の「洛北サイエンス」を設定した。大学や企業、研究所などと連携して、中高6年間にわたって専門家に指導を受けながら最先端技術を学び、体験的な学習を通して、課題解決に向けた科学的的手法を身に付けるカリキュラムを編成している。2011年度入試では、洛北高校から国公立大学への現役合格者数は、中高一貫コースだけで京都大学12人、大阪大学3人、神戸大学4人など、計40人であった。

市立西京高校も2011年度、京都大学12人、大阪大学8人、神戸大学18人など、学校全体で計141人の国公立大学現役合格者を出した。2012年度に中高一貫校として初めての卒業生を出す園部高校にも期待が寄せられている。

高校の現状② 入試制度の改善

類・類型制の見直しで 高校選択の幅を拡大

府教委は2011年1月、「『京の子ど

も、夢・未来』プラン21」の理念を引き継ぎ、府の教育振興基本計画として、「京都府教育振興プラン」を策定した。その中で、“生徒に選ばれる府立高校づくり”を目標に、入試制度の改善に取り組んでいる。

それまで府立高校は、1985年に導入した「類・類型制」を採ってきた。これは、全日制普通科を、基礎・基本を重視した第I類、大学進学指導に重点を置く第II類、体育系・芸術系・英文系など、個性を伸ばす第III類の3つに区分するものだ。

普通科では、この類・類型ごとの入学者選抜を行ってきた。しかし、公立高校に対する生徒のニーズが年々多様化し、学校の特色を重視する傾向が強まる中、高校を選択できない類・類型制の見直しに着手。

公立高校は、京都市(北・南)、山城、口丹、中丹、丹後の6通学圏に分かれているが、2011年度入試から山城通学圏で第I類・第II類が廃止され、新しい普通科として募集を開始した。2012年度には、北部地域(口丹・中丹・丹後)でも同様の改正を行う予定だ。さらに京都市と乙訓地域でも、類・類型制の見直しを検討している。すでに府内全域から受験が可能な専門学科等もあり、改革が進めば高校の特色化が進み、選択肢はさらに広

がることになる。



進路指導の特徴

「進路検討会」で 進路選択をサポート

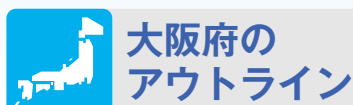
公立高校の好調な進学実績を支えるのは「進路検討会」だ。定期試験や模試の成績から、生徒の学力や志望状況を把握し、進学の可能性・方向性を見極めながら、担任と進路指導部、学年団など、すべての教員が情報を共有し、協力して指導に当たる。

嵯峨野高校が早くからこのシステムを取り入れて実績を上げ、現在は進学上位校のほとんどで導入されている。府教委では、「一人ひとりの状況に合わせた細かい対応が可能になり、大学進学をめざす子どもを預けられるという安心感から、府立高校に対する保護者の信頼が高まった」と評価している。

また、府教委は、京都大学、京都府立大学、同志社大学など、22大学と高大連携の包括協定を結んでいる。京都大学との連携では、高校生の体験授業を中心に、発展的な取り組みとして、「はやぶさ」をテーマに宇宙や科学技術を考えるシンポジウムの開催なども積極的に行っている。教員研修にも力を入れており、2010年度には、同大学のiPS細胞研究所やiCeMS(物質-細胞統合システム拠点)と連携して、高校教員の研修も協同して行っている。

キャリア教育の施策では、府内の7校を実践研究校に指定し、企業やNPO、民間施設とのインターンシップ活動を推進。大学進学も含めた将来を具体的に考えさせようと、キャリア教育の充実をめざしている。

大阪府



学区の変更により 高校選択に変化

文部科学省『2010年度学校基本調査』によると、大阪府における18歳人口は7万9543人で東京都に次いで全国2位である。2006年度と比較した18歳人口の減少率は4.9%で、全国平均の8.3%を大きく下回る。

大学等進学率は全国平均の54.2%と比べて59.1%(全国7位)と高く、地元大学進学率も55.1%(全国7位)と高い(図表1)。

高校数は国立1校、公立169校、私立95校の計265校(特別支援学校を除く)。私立高校が35.8%を占めており、全国平均の25.8%を上回っている。生徒数は、国立約1300人、公立約14万1000人、私立約8万3000人(定時制を除く)である。

公立高校(全日制普通科)の学区は、2007年度に9区から4区に変更。その結果、それまで選択できなかった高

校への進学率が、2007年度12%だったのに対し、2010年度には17.2%に上昇するなど、高校選択に変化が見られる。



高校の現状① 受験者の状況

授業料無償化の影響で 公立・私立の人気に変動

大阪府では、もともと私立高校に比べて公立高校の人気が高かったが、私立高校の専願志願率が2010年度の21.5%から2011年度は27.0%と、大幅に上昇した。原因の一つとして、2011年度から大阪府が導入した私立高校の授業料無償化の影響が考えられる。公立高校では、2010年度から無償化が開始されたが、今回の入試結果は、私立と公立の授業料に差がなくなり、高校選択の幅が広がったことによるものだろう。

一方、公立高校では、後述する2011年度の進学指導特色校の指定によって新設された文理学科に人気が集積。専門学科等の入試が行われる前期選抜の平均倍率は、2005年度以降、1.46から1.5倍台で推移していたが、文理学科が新設された2011年度は1.61倍に上昇した。この結果、ほとんどの普通科で入試が行われる後期選抜の受験者が2011年度は大きく減少し、2005年度以降1.13~1.23倍で推移していた平均倍率が1.05倍まで

下降。定員割れとなった普通科は40校を超えた。府教委は、「2011年度入試の結果をしっかりと分析したうえで、中学生に受け入れられる公立高校像を改めて考えなければならない」としている。



高校の現状② 改革の取り組み

特色ある高校づくりを さらに推進

府教委は1999年度から2008年度までの10年間、「学校教育の再構築」と「総合的教育力の再構築」を主軸とする「教育改革プログラム」に基づき、府立高校の再編整備計画として、総合学科や単位制高校、専門高校などの特色ある学校づくりを進めてきた。現在は、10年間の施策を基盤に、2009年度から2018年度までの10年間の事業計画「大阪の教育力」向上プランを推進している。このプランでは、教育内容の充実など、「学校力」を高めることを目標の一つに掲げ、特色ある高校づくりへのさらなる取り組みの推進など、「入学してよかったと言われる学校」をめざす(図表2)。

現在、このプランを基に進められている府立高校のさらなる特色づくりには、4つの特徴的な事業がある。

1つ目は、大学進学指導に重点を置いた進学指導特色校(グローバルリーダーズ・ハイスクール)である。教育カリキュラム、進路指導の内容、特色ある教育活動などを中心に、地域バランスや通学の利便性を考慮して、北野、大手前、三国丘など10校を指定。普通科に加えて、全学区から志願が可能な専門学科の文理学科を併設(2011年4月)した。

進学指導特色校では、10校による

図表 1 18歳人口と進学率の推移

年度	2006	2007	2008	2009	2010
18歳人口(人)	83,673	83,113	79,340	79,129	79,543
大学等進学率(%)	54.0	55.5	57.0	58.1	59.1
地元大学進学率(%)	53.3	53.9	54.3	54.2	55.1
地元短大進学率(%)	73.4	74.2	75.1	74.0	73.3

※学校基本調査報告書を基に進研アドが算出。

※大学等進学率には、大学・短大の通信教育部への進学者を含む。過年度卒業者を含まない。

※地元大学進学率、地元短大進学率には過年度卒業者を含む。

図表2 府立高校(全日制)の特色づくり・再整備の状況

	普通科		総合学科	全日制 単位制高校	専門高校	合計
	普通科	専門学科併置・ 総合選択制等				
1998年度	117校	19校	3校	0	16校	155校
↓						
2011年度	64校	44校	10校	6校	15校	139校

出典/大阪府教育委員会資料

合同成果発表会や生徒の海外派遣、学力診断共通テストの実施など、連携と交流を推進し、グローバル社会をリードする人材の育成をめざす。指定期間は2011年度から3年間で、各校の成果を考慮して指定校を見直していく予定だが、指定基準などは現在検討中である。

2つ目は、全国で初の試みとなる教育センター附属高校の設置である。教育センターでは、教職員の研修や教育の技術研究・調査などを行っており、附属高校は、センターの実験施設や研修施設を活用し、専門スタッフによる特別講座を実施するなど、教育センターと一体となった授業を行う。

教育カリキュラムは、普通科を基礎に、人文、社会、自然などの各分野を融合した教科「探究ナビ」を設定。この探究ナビを核に、プレゼンテーションやディベートなどを取り入れた授業や、問題解決能力を育てるPISA*型学力の育成につながる授業など、先進的な教育を実践し、成果を発信する。

3つ目は、将来のトップアスリートや体育指導者、スポーツ・福祉施設指導員等、スポーツ関連分野などで活躍する人材の育成をめざす体育科(専門学科)の設置である。2011年度に摂津高校に新設され、府立では大塚高校と合わせて2校となった。摂津高校では、5年以内に全国大会で3位以内入賞のトップアスリート輩出を目標にしている。

4つ目は中高一貫教育の拡充であ

る。「地域で学び、育ち、地域を支え、次代を担う生徒を育む学校」をめざし、2011年度、地域との結びつきが強く、住民からのニーズも高かった柏原東高校に連携型中高一貫教育を導入。柏原市立の中学校6校が連携の対象となっている。これで、府立中高一貫校は、2004年度に導入した能勢高校に続き2校目となった。

そのほかの取り組みとしては、生徒の多様な学習と進路選択実現のため、現在25校の普通科教育課程の中に設置されている音楽や美術、保育、福祉などの専門コースや、英語コミュニケーション能力の向上をめざす「イングリッシュ・フロンティア・ハイスクール」などが挙げられる。イングリッシュ・フロンティア・ハイスクールは、現在24校が研究校として指定されている。外国人講師による特設レッスンなどを行っており、今後は語学学習機器も導入する予定だ。



進路指導の特徴

新キャリア教育事業で 内定率向上を図る

京都大学、大阪大学、神戸大学など、関西エリアの難関国公立大学への進学は、進学指導特色校に指定されている北野、三国丘、大手前など、公立高校の実績が高い。中でも大手前高校は、1年次から校内実力テストなどで生徒の学力を把握した手厚い

学力・進路指導に特徴がある。

一方、私立高校では、大阪星光学院や四天王寺、大阪桐蔭といった中高一貫の私立進学校が難関大学進学の実績を上げている。高校2年次で受験に必要な学習内容を修了する「先取り学習」を教育の特色とする大阪桐蔭は、受験指導に的を絞った特別講座も開講。「東大・京大特別進学講座」や「志望校別対策講座」など、各大学の出題傾向をふまえた講義で、実践的な指導を行っている。

高大連携については、府教委が大阪教育大学、大阪府立大学、立命館大学、龍谷大学、追手門大学、関西大学など20大学と、大学での学習機会の提供や教職員相互の研修・交流などの包括協定を結んでいる。現在は、府立高校の約70%が取り組んでおり、2013年度には全府立高校での実施をめざしている。

キャリア教育に関する取り組みでは、2011年度から導入された「実践的キャリア教育・職業教育支援事業」が特徴的だ。これは、公立・私立高校を合わせた府内約60校を「実践的キャリア教育・職業教育推進校」に指定し、就職内定率の向上、進路未定者の減少を図るもの。指定校は、校長のマネジメントにより専門学校や企業などと連携し、生徒のニーズに応じた「自己理解」「実践的職業教育」「進路・就活支援」「キャリア教育支援」などのプログラムを実施する。

府教委は、2010年度に大阪府商工労働部、キャリアカウンセラー資格を持つ就職支援コーディネーターらと協同して『キャリア教育&就職支援ワーク集』を作製し、府内の公立高校に配付した。これは、府内の高校がそれぞれ取り組んだキャリア教育のノウハウの教材集だ。冊子の全内容は府教委のウェブサイトにも掲載されている。

*「OECD 生徒の学習到達度調査」。読解力、数学的リテラシー、科学的リテラシーの3分野について調査する。